

第2節 疾病に応じた保健医療施策の推進

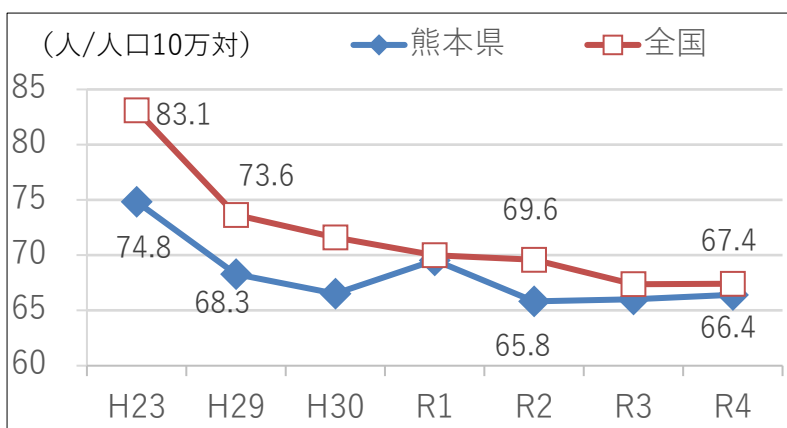
第1項 がん

※本項の内容については、「第4次熊本県がん対策推進計画」の内容から、保健医療に関する部分を中心に記載しています。

1. 現状と課題

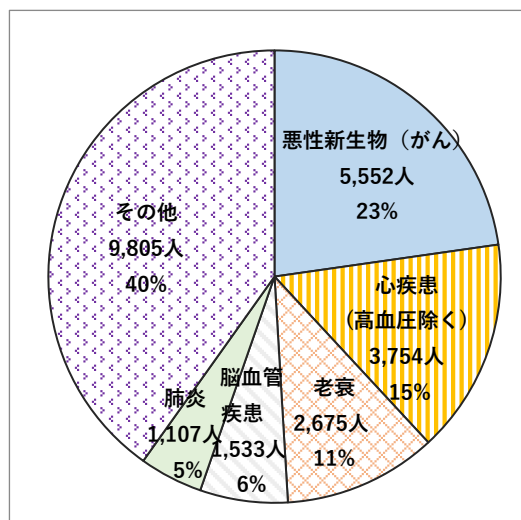
- 本県のがんの75歳未満の年齢調整死亡率^①は、全国平均より低く、減少傾向にあります。しかし、がんは昭和55年(1980年)以降、本県の死亡原因の第1位となっており、令和4年(2022年)における本県の死亡原因に占めるがんの割合は23%です(図1、図2参照)。

【図1】 全てのがんに関する75歳未満年齢調整死亡率



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」

【図2】 死亡原因の割合(熊本県)



出典：厚生労働省「令和4年人口動態統計」

- がんの予防には、より良い生活習慣の形成や、生涯を通じた健康づくりの推進が重要ですが、肥満の割合、食塩摂取量、野菜摂取量、運動習慣がある人の割合、未成年者の喫煙割合などいずれも第7次計画の目標に達していません(第2章第1節第1項及び第2項参照)。
- 本県の5がん(胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん)の検診受診率と大腸がん、子宮頸がんの精密検査受診率は全国平均を上回っていますが、国が「第4期がん対策推進基本計画」に定めた目標(検診受診率60%、精密検査受診率90%)にはいずれも達していません(評価指標①及び②参照)。
- 県内全ての二次保健医療圏においてがん診療連携拠点病院^②が整備されていますが、今後も診療機能の維持と更なる質の向上を行う必要があります。また、より身近な地域で緩和ケアの提供ができるよう、緩和ケアを行う医療従事者の更なる育成が求められています。研修修了者数は伸び悩んでいます。
- 医科歯科連携に対応できるがん医科歯科連携登録歯科医師数は増加していますが、

① 年齢調整死亡率とは、異なる地域間で死亡状況の比較ができるよう、年齢構成を調整し、そろえた死亡率のことです。単位は、人口10万人対で表章しています。

② がん診療連携拠点病院とは、専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の整備、患者・住民への相談支援や情報提供などの役割を担う病院のことです。

医科歯科連携実績やがん患者の増加等により、退院後の継続した口腔健康管理に対応するには不足しています。

- 各がん診療連携拠点病院におけるがん相談支援センター^③の年間相談件数は減少傾向にあるため、県民への周知を強化する必要があります。
- 平成30年度(2018年度)の厚生労働省による調査では、がんと診断を受けて退職・廃業した人は、就労者の19.8%を占めている一方、治療と仕事を両立するための社内制度等を利用した患者の割合は36.1%に留まっており、がん患者の離職防止や再就職のための就労支援を充実させていく必要があります。
- 令和元年度(2019年度)頃から新型コロナウイルス感染症が流行した際は、がんを始めとする必要な医療や健診(検診)を受けない、又は躊躇する、いわゆる「受診控え」が発生しました。また、外出の自粛など制限された生活により運動量や人とのかかわりの減少も指摘されました。今後、新興感染症が流行した場合も、適切な感染症対策を行ったうえでの受診や適度な運動の継続など、健康二次被害の防止に取り組む必要があります。
- 感染症発生・まん延時や災害時等の有事の際であっても、がん患者が適切な医療等を受けることができるよう、平時から災害時等への備えが必要です。

2. 目指す姿

- 県民にがんに関する正しい知識を普及し、がんの予防・早期発見ができるようにするとともに、様々ながんの様態に応じて、いつでも、どこにいても安心かつ納得できるがん医療や支援を受け、尊厳を持って暮らしていくことができるようにします。

3. 施策の方向性

(1) 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実

【適切な食生活や運動による発症予防の推進】

- ・ 食生活や運動習慣等の生活習慣の改善に向けた保健指導や情報提供、健康的な食環境の整備等を推進します。
- ・ 禁煙支援や受動喫煙防止のための環境整備に取り組みます。

【早期発見対策の推進】

- ・ 市町村や医療保険者と連携した特定健診・がん検診の受診勧奨に引き続き取り組むとともに、特定健診とがん検診の同時実施等、受診者の利便性を向上させる実施体制に取り組みます。
- ・ がん検診精密検査の受診率及び精度管理の向上に取り組みます。

^③ がん相談支援センターとは、がん診療連携拠点病院に設置されているがんに関する相談窓口のことです。診断や治療に関するだけでなく、医療費、生活、就労など、がんに関する相談について無料で相談することができます。

(2) 患者本位で持続可能ながん医療の提供

【医療提供体制の強化】

- ・ がん医療水準の均てん化と質の向上を行うためのがん診療施設・設備の整備に取り組みます。

【患者等の生活の質の向上】

- ・ 緩和ケア病棟のない医療圏でも十分な緩和ケアを受けることができるよう、在宅緩和ケア、地域連携を推進します。
- ・ 緩和ケアや医療用麻薬の正しい知識の普及啓発を推進するとともに、がんになっても自分らしく生きることを念頭におき、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）^④の普及・啓発を行います。

【がん医科歯科連携登録歯科医師の確保】

- ・ がん患者の治療に伴う口腔合併症予防や術後肺炎発症予防及び治療後の継続した口腔健康管理を行うため、引き続き、がん医科歯科連携登録歯科医師の確保を行います。

(3) がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

【がん相談支援体制の強化】

- ・ がん相談支援センターの更なる周知、がん相談支援体制の整備に取り組みます。
- ・ がん専門相談員の資質向上を目的とした研修、がん相談支援センターの評価分析による、相談支援の質の向上に取り組みます。
- ・ 認定がん医療ネットワークナビゲーター^⑤との連携を促進します。

【「私のカルテ^⑥」の更なる推進】

- ・ 地域のかかりつけ医とがん専門医が情報を共有し、共同で診療を行うための「私のカルテ」について、対象範囲の拡大、最新のガイドラインに沿った改訂に取り組みます。
- ・ 「私のカルテ」の作成に係る負担軽減、患者の受診履歴・検査データ等の情報の医療機関間の共有のために、くまもとメディカルネットワーク等ICTの活用を検討します。

【がん患者の就労支援体制の整備】

- ・ 労働局等の関係機関と連携した患者の仕事と治療の両立を支援します。
- ・ がん患者が治療の早期からがん相談支援センターの支援を受けることができるよう、センターの周知・啓発を推進します。

(4) これらを支える基盤の整備

【がんに関する正しい知識の普及啓発】

- ・ 医療従事者に対する緩和ケア研修会等の実施、県民公開講座等による県民への緩和ケアの普及啓発を促進します。

^④ ACP（Advance Care Planning）とは、今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセスのことです。

^⑤ 認定がん医療ネットワークナビゲーターとは、がん診療連携拠点病院のがん相談支援業務を補完することを目的に、一般社団法人日本癌治療学会から認定された「がん情報の提供のみに特化した人材」のことです。医療実務には係わらず、がんに関する正確な情報を的確、適切に患者・家族に伝え、患者・家族の疑問に答えて悩みを解決する役割を担います。

^⑥ 私のカルテとは、熊本県版のがん診療連携クリティカルパスであり、地域のかかりつけ医と拠点病院の専門医が情報を共有し、共同で診療を行うためのカルテ（診療計画表）のことです。

- ・ 学校でのがん教育の着実な実施、教職員へのがんの基礎知識やがん教育に関する研修等、がん教育を推進します。

(5) 感染症のまん延や災害等を見据えたがん対策の推進

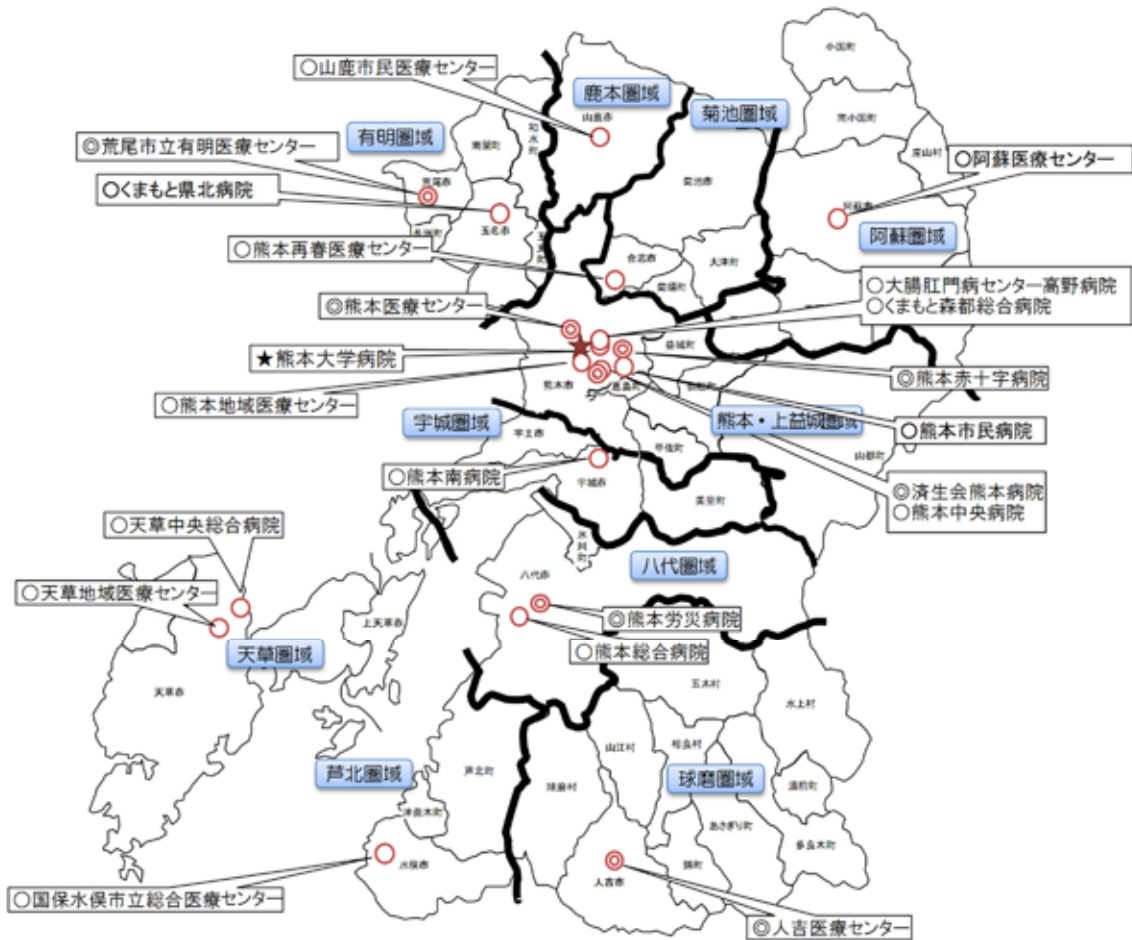
- ・ 感染症発生・まん延時や災害時等の有事においても医療を提供できるよう、熊本県がん診療連携協議会と連携し、診療機能の役割分担、各施設が協力した人材育成や応援体制の構築、診療に必要な情報の共有等、地域の実情に応じた連携体制の整備を進めます。

4. 評価指標

指標名	現状	目標	指標の説明・目標設定の考え方
① がん検診受診率	胃がん 男性 50.6% 胃がん 女性 42.9% 肺がん 男性 54.7% 肺がん 女性 51.1% 大腸がん 男性 51.3% 大腸がん 女性 45.1% 子宮頸がん 女性 47.5% 乳がん 女性 51.4% (令和4年)	全項目 60%以上 (令和10年)	市町村・健診機関等と連携することにより、国の第4期計画の目標値(60%)以上を目指す。
② 精密検査受診率	胃がん 82.4% 肺がん 82.1% 大腸がん 75.4% 子宮頸がん 86.1% 乳がん 87.4% (令和2年度)	全項目 90%以上 (令和9年度)	市町村・健診機関等と連携することにより、国の第4期計画の目標値(90%)以上を目指す。
③ がん診療連携拠点病院における緩和ケア研修を受講した医師の割合	国指定がん診療連携拠点病院 86% 県指定がん診療連携拠点病院 76% (令和5年)	国指定がん診療連携拠点病院 90%以上 県指定がん診療連携拠点病院 80%以上 (令和11年)	熊本県がん診療連携協議会等と連携することにより、国指定がん診療連携拠点病院においては、国が掲げる目標値(国指定90%以上)を目指す。 県指定がん診療連携拠点病院においても同様の取組により、国指定の拠点病院と同程度の上昇幅の目標(80%以上)を目指す。
④ がん相談支援センターにおける相談件数	15,214件 (令和4年)	20,000件 (令和10年)	熊本県がん診療連携協議会等と連携することにより、過去10年間で最も件数が多かった平成27年の実績と同程度にすることを旨とする。
⑤ 「私のカルテ」新規年間導入件数	622件 (令和4年度)	1,000件 (令和11年度)	コロナ禍の影響がない平成29年度から平成30年度の伸び率を参考に、毎年度、件数を前年度比7%増加することを旨とする。

5. がん医療圏

二次保健医療圏をがん医療圏とします。



★都道府県がん診療連携拠点病院 ^⑦
熊本大学病院
◎地域がん診療連携拠点病院 ^⑧
熊本労災病院
人吉医療センター
熊本赤十字病院
熊本医療センター
済生会熊本病院
荒尾市立有明医療センター

○熊本県指定がん診療連携拠点病院 ^⑨
熊本中央病院
熊本再春医療センター
熊本総合病院
国保水俣市立総合医療センター
天草地域医療センター
天草中央総合病院
熊本地域医療センター
くまもと森都総合病院
大腸肛門病センター高野病院
山鹿市民医療センター
熊本南病院
阿蘇医療センター
熊本市民病院
くまもと県北病院

⑦ 都道府県がん診療連携拠点病院とは、都道府県内で中心的役割を果たすよう厚生労働大臣が指定した病院で、専門的ながん医療を提供するとともに、都道府県内のがん診療の連携協力体制の整備やがんに関する相談支援情報の提供を担う医療機関のことで、

⑧ 地域がん診療連携拠点病院とは、地域内で中心的役割を果たすよう厚生労働大臣が指定した病院で、専門的ながん医療を提供するとともに、各地域（二次保健医療圏）のがん診療の連携協力体制の整備やがんに関する相談支援情報の提供を担う医療機関のことで、

⑨ 熊本県指定がん診療連携拠点病院とは、県内の各地域においてがん診療連携の中核を担うよう県が指定した病院で、県民に安心かつ適切ながん診療を提供できると認められる医療機関のことで、

第3章第2節第1項 がん

番号	C 個別施策
1	「第5次くまもと21ヘルスプラン」に沿った取組の継続 指標 ・拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数
2	肝炎ウイルス検査体制の充実や肝炎ウイルス陽性者の受診勧奨、普及啓発 指標 ・肝疾患専門医療機関数 ・肝炎医療コーディネーターの養成者数
3	指針に基づくがん検診の科学的根拠に基づいた効果検証 指標 ・指針の遵守市町村数

1	拠点病院等を中心とした、患者に対するがんの告知や、インフォームド・コンセントの取得、セカンドオピニオンの提示体制の推進 指標 ・治療前にセカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合
2	拠点病院等を中心とした、専門的な人材の育成及び配置、拠点病院等や地域の職能団体が中心となつての地域のがん診療や緩和ケア等を担う人材の育成及び配置 指標 ・緩和ケア研修の年間開催回数 ・がん患者の主治医や担当医となる医師の緩和ケア研修会受講率※ ・医師以外の緩和ケア研修会修了者数 ・緩和ケアカンファレンスの年間開催回数
3	妊孕性温存療法及びがん治療後の生殖補助医療に関する情報提供や意思決定支援体制の推進 指標 ・がん相談支援センターにおける「妊孕性・生殖機能」に関する相談件数 ・治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けたがん患者の割合
4	院内や地域の歯科医師、歯科衛生士等と連携し、医科歯科連携によるがん患者の口腔の管理の推進 指標 ・がん患者の口腔健康管理のため院内又は地域の歯科医師と連携して対応している拠点病院等の割合 ・がん医科歯科連携登録歯科医数

1	地域の関係機関等と連携したがん相談支援センターの認知度向上・役割の理解の促進 相談支援の質を担保するため、関係団体等と連携したがん相談支援に係る研修の実施 指標 ・がん相談支援センターにおける相談件数※ ・おしゃべり相談室実施施設数 ・がん相談支援センターについて知っているがん患者の割合 ・ピアサポーターについて知っているがん患者の割合 ・「私のカルテ」新規年間導入件数※
2	医療機関等において就労支援に携わる者が、産業医等と連携し、患者・事業主間の治療と仕事の両立に向けた調整を支援できる体制の整備 指標 ・がん相談支援センターにおける就労に関する相談件数 ・治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合 ・がんと診断後も仕事を継続していたがん患者の割合 ・退職したがん患者のうち、がん治療の開始前までに退職した者の割合
3	拠点病院等を中心としたアピアランスケアに係る相談支援・情報提供体制の構築について検討 指標 ・拠点病院等におけるアピアランスに関する相談件数 ・外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談ができたがん患者の割合

1	がんに関する正しい知識の普及啓発 指標 ・県民公開講座の実施回数 ・拠点病院で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回
2	質の高い情報収集に資する精度管理、がん登録の利活用の推進 指標 全国がん登録の精度指標としてのM比・DC0%
3	がん患者のがん対策推進協議会等への参画の推進、ICTやAIを含むデジタル技術の活用による医療のデータ化とその利活用の推進 指標 くまもとメディカルネットワークへの県民及び医療・介護関係施設加入数

1	感染症発生・まん延時・災害時等の状況下においても、必要ながん医療を提供できるよう、地域の実情に応じた連携体制の整備 指標 BCPを整備している拠点病院等の割合
---	---

番号	B 中間アウトカム
1	科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実 指標 ・40歳～64歳男性の肥満者の割合 ・食塩・野菜摂取量 ・成人の中で運動習慣のある者の割合 ・喫煙割合 ・生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合 ・B型・C型肝炎ウイルス検査受検率 ・B型・C型肝炎ウイルス陽性者数 ・がん検診受診率※ ・精密検査受診率※ ・精度管理B評価以上市町村数

1	患者本位で持続可能ながん医療の提供 指標 ・がんの75歳未満年齢調整死亡率 ・がん部位別75歳未満年齢調整死亡率 ・がんの診断・治療全体の総合評価 ・身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合 ・精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合 ・主治医以外にも相談しやすいスタッフがいた患者の割合 ・医療スタッフ間で情報が十分に共有されていると感じた患者の割合
---	--

1	がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築 指標 ・家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合 ・治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合 ・がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合 ・身体的・精神心理的な苦痛により日常生活に支障を来しているがん患者の割合 ・治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したがん患者の割合 ・金銭的負担が原因で生活に影響があったがん患者の割合
---	--

1	これらを支える基盤の整備 指標 ・県民公開講座の実施回数 ・全国がん登録情報の利用件数 ・くまもとメディカルネットワークへの県民及び医療・介護関係施設加入数
---	--

1	感染症のまん延や災害等を見据えたがん対策の推進 指標 BCPを整備している拠点病院等の割合
---	---

番号	A 分野アウトカム
1	がんの死亡率の減少 指標 ・がん部位別年齢調整死亡率 ・がん部位別年齢調整罹患率 ・がん部位別5年生存率
2	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上 指標 ・現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合

第8次熊本県保健医療計画 現状把握のための指標一覧 (がん)

病期・医療機能	SPO	重点●	指標名	調査の詳細		データ											単位	評価指標として使用					
				調査名	調査年(調査周期)	全国	熊本県		二次保健医療圏ごと														
							数値	全国順位	熊本・上益城	宇城	有明	鹿本	菊池	阿蘇	八代	芦北			球磨	天草			
1次予防・2次予防	P	●	がん検診受診率	国民生活基礎調査	R4 (3年毎)	①胃がん 男性 47.5% 女性 36.5% ②肺がん 男性 53.2% 女性 46.4% ③大腸がん 男性49.1% 女性42.8% ④子宮頸がん 43.6% ⑤乳がん 47.4%	①胃がん 男性 50.6% 女性 42.9% ②肺がん 男性 54.7% 女性 51.1% ③大腸がん 男性51.3% 女性45.1% ④子宮頸がん 47.5% ⑤乳がん 51.4%	①胃がん 男性17位 女性 6位 ②肺がん 男性23位 女性18位 ③大腸がん 男性17位 女性18位 ④子宮頸がん 13位 ⑤乳がん 11位														%	○
1次予防・2次予防	P	●	精密検査受診率	地域保健・健康増進事業報告	R2年度 (3年毎)	①胃がん 86.1% ②肺がん 83.0% ③大腸がん 68.7% ④子宮頸がん 77.1% ⑤乳がん 90.1%	①胃がん 82.4% ②肺がん 82.1% ③大腸がん 75.4% ④子宮頸がん 86.1% ⑤乳がん 87.4%	-														%	○
1次予防・2次予防	O	●	がん部位別年齢調整死亡率	人口動態統計	R4 (毎年)	①胃がん 6.2% ②肺がん 11.9% ③大腸がん 9.7% ④子宮頸がん 5.1% ⑤乳がん 10.4%	①胃がん 4.7% ②肺がん 11.4% ③大腸がん 8.9% ④子宮頸がん 5.7% ⑤乳がん 10.8%	①胃がん 4位 ②肺がん 15位 ③大腸がん 9位 ④子宮頸がん 35位 ⑤乳がん 32位														%	
1次予防・2次予防	O	●	がん部位別年齢調整罹患率	全国がん登録	R3 (毎年)	①胃がん 41.6% ②肺がん 42.4% ③大腸がん 58.2% ④子宮頸がん 13.9% ⑤乳がん 51.4%	①胃がん 29.3% ②肺がん 40.2% ③大腸がん 49.1% ④子宮頸がん 16.5% ⑤乳がん 53.6%	①胃がん 3位 ②肺がん 14位 ③大腸がん 1位 ④子宮頸がん 43位 ⑤乳がん 39位														%	
	O		がん部位別5年生生存率	全国がん登録/院内がん登録	R元 (毎年)	①胃がん 70.2% ②肺がん 47.5% ③大腸がん 70.9% ④子宮頸がん 74.4% ⑤乳がん 91.6%	①胃がん 73.1% ②肺がん 56.0% ③大腸がん 70.9% ④子宮頸がん 80.8% ⑤乳がん 89.0%	①胃がん 12位 ②肺がん 2位 ③大腸がん 23位 ④子宮頸がん 1位 ⑤乳がん 42位														%	
	O		現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	患者体験調査	-	-	国が調査を行う予定のため不明	-														%	

